

薬用植物園かわらばん

いま、こんな草木も楽しめませよ！
草木に囲まれ心も体もリフレッシュ…



2020年
9月15日
102号



ゲンノショウコ（フウロソウ科）

皆さまお馴染みの可愛い植物です。今、第二圃場で花が咲き始めました。1つの花茎に2個づつ花がつきます。東アジアに分布し、日本でも道端や野山に生えている多年草です。花の色は、関西以东では白色、以西では赤色が多く見られます。果実の弾けた形が神輿に似ていることから「ミコシグサ」とも呼ばれていますが、下痢によく効くことからゲンノショウコ（現之証拠）の名があります。日本の代表的な民間薬で、漢方での利用はなく、江戸時代初期頃に使われはじめたとのことです。薬効は白花、赤花とも変わりません。地上部を下痢止めの他、整腸目的に、また湿疹やかぶれにも外用されます。採取は薬効の高い花期のこれからが良いです。なお、若葉は毒草のキツネノボタンによく似ているので注意が必要です。

アサガオ（ヒルガオ科）

管理棟側面のネットで、夏の名残の花が見られます。熱帯アジア原産で鑑賞用に栽培され、多くの品種があります。その中でも東京の下町で栽培されていた「東京古形標準型」は、原種に近いものの一つと言われています。名の由来は、早朝に花が咲き、昼頃には萎んでしまう特徴を、朝の美人の顔に例え、朝の容花（かおばな）から。アサガオの種子が、生薬の牽牛子（ケンゴシ）となり、日本薬局方にも収載され、日本の民間薬として瀉下を目的に使用されます。日本で承認されている漢方製剤では、疝痛に用いる八味疝気方という1処方の方に配合されていますが、漢方でも中医学でもほとんど使用されません。

今、こんな花木がたのしめますよ！！